



imaginary

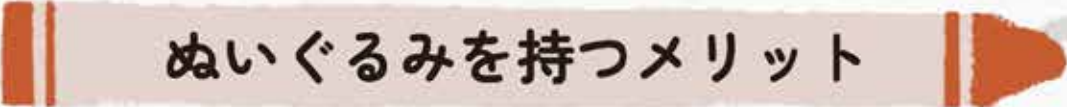
令和5年  
卒業進級制作企画書

チーム名 さつまいもず

## Imaginary とは

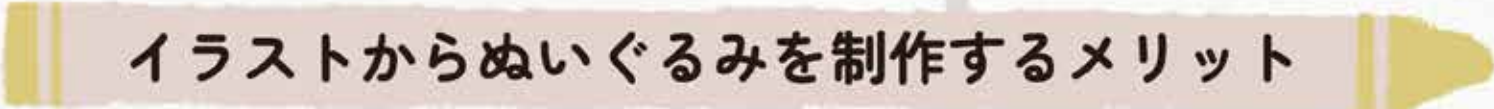
「Imaginary」とは「想像」という意味で、imaginary friend が由来  
イラストから子供の頃に着ていた洋服やもう使わなくなった布類を使用した  
ぬいぐるみをオーダーできるサイト。

世界に一つだけの「イマジナリーフレンド」を制作することができる。  
思い出の衣類からできる素材を使用することで、環境に配慮した  
世界に一つだけの特別なぬいぐるみを制作することができるのは他にはなくここだけ。


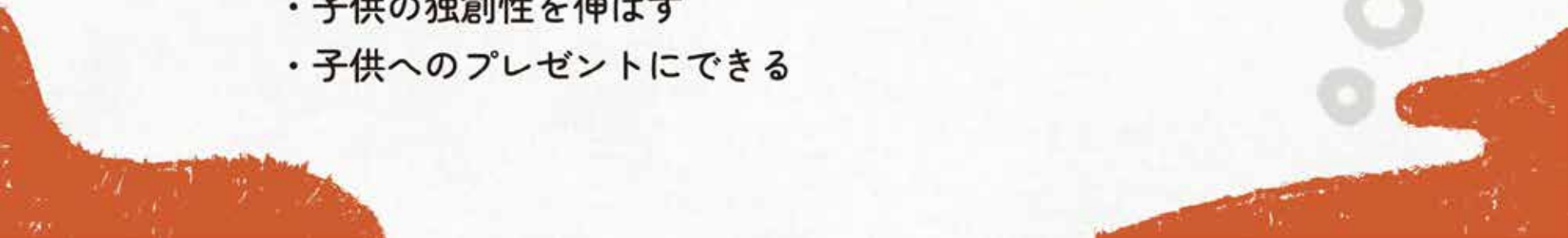


## ぬいぐるみを持つメリット

- ・リラックスができる
- ・想像力を養うことができる



## イラストからぬいぐるみを制作するメリット

- ・思い出をぬいぐるみとして残せる
  - ・子供の独創性を伸ばす
  - ・子供へのプレゼントにできる
- 
- 

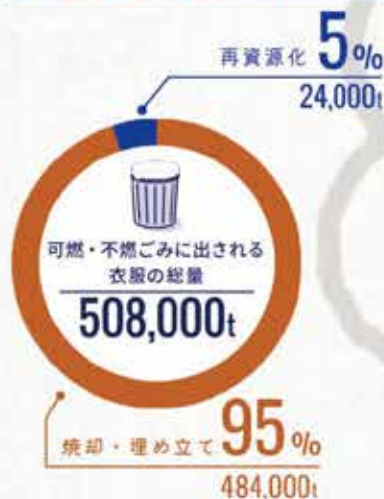
## 思い出のある衣類を使用するメリット

- ・ 思い出を別の形でこれからもそばに置いておける
- ・ 衣類排気量を減らすことができる
- ・ SDGs の「つくる責任つかう責任」に取り組める
- ・ リサイクル素材を使用することで、他社より費用が抑えられる

## 現状認識

服がごみとして出された場合、  
再資源化される割合は  
5%程でほとんどは  
そのまま焼却・埋め立て処分されます。  
その量は年間で約48万トン。  
この数値を換算すると、  
大型トラック約130台分を  
毎日焼却・埋め立て  
していることになります。

ごみに出される衣服の総量と処理方法



1日あたりに焼却・埋め立てされる衣服の総量(平均)

**1,300t/Day**

大型トラック



**130**台分

[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/)

可燃ごみ・不燃ごみに出される衣類の分量と焼却・埋め立て量



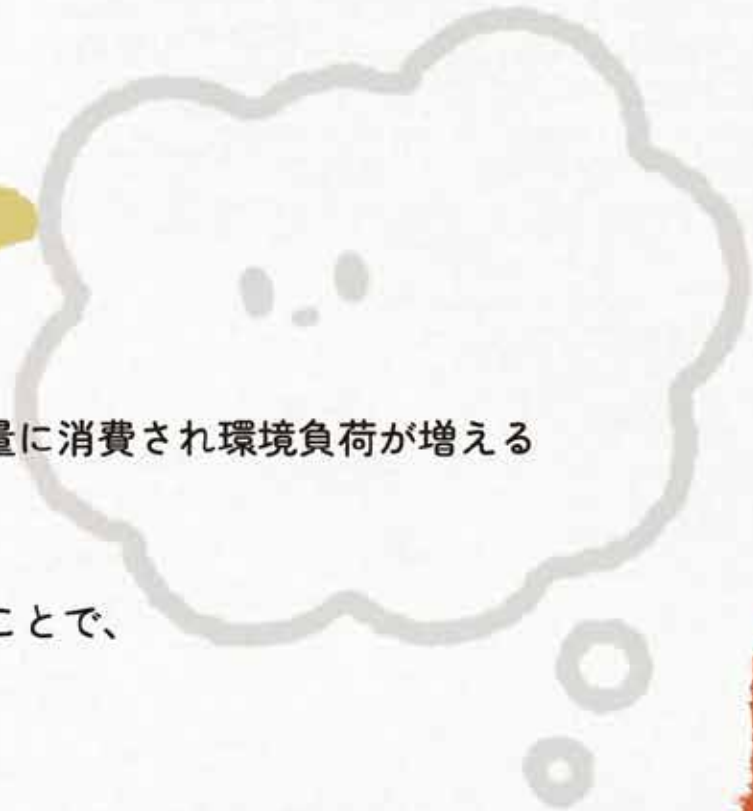
## 問題点・解決策

衣類を大量に廃棄することで

それを焼却する際に生じるエネルギーが大量に消費され環境負荷が増える



使わなくなった衣類を違う形で再利用することで、  
衣類の廃棄量を減らし環境負荷を減らす





イマちゃん  
~~~~~

imaginary

サイト名

imaginary

コンセプト

思い出を新しい姿に変えるオリジナルぬいぐるみ

キャッチコピー

思い出とこれからも



## ターゲット

3歳から小学校3年生までの子供を持つ両親



子供の誕生日プレゼントに選んでもらう





## ペルソナ

名前 津田 颯二郎

性別 男性

年齢 34 歳

職業 サラリーマン

家族構成 妻、娘(7歳)、息子(4歳)

### 最近思っていること

絵が得意な娘の誕生日プレゼントを買いたいが、  
今までは絵を描く道具をプレゼントしていた。  
小学校入学と誕生日のお祝いを兼ねたプレゼントをあげたい。  
最近は颯二郎がSDGsについて関心があり、  
娘に普段とは違うプレゼントをあげたいと思い  
imaginaryを使用したいと思っている。



## 制作に使う開発環境



開発言語



開発環境



デザイン

## 制作物

Webサイト、バナー、ロゴ

## コンセプトカラー



#D95F2E



#75AEC1



#F0DC7D



#333333



#FFFFFF

子供の明るさや元気な感じをイメージ



## 成果目標

- ・ 子供の独創性を伸ばす
- ・ 未来の子供と地球環境を守る
- ・ 衣類の廃棄量減少させ環境負荷を減らす

